CASE STUDY



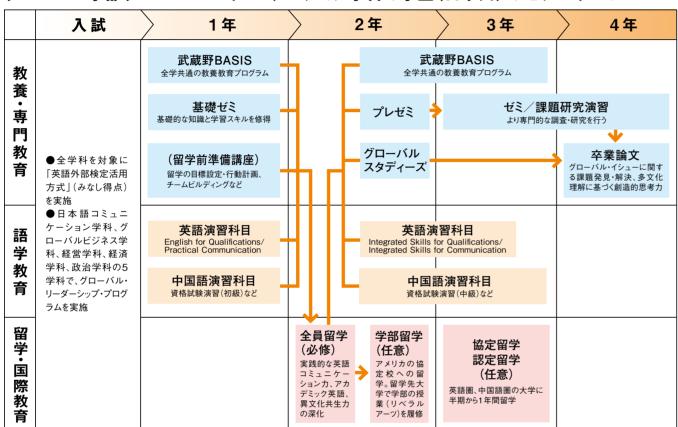
学生数/約9000人

学部/グローバル、経済、法、文、人間科、工、教育、薬、看護

大学院/文学研究科、言語文化研究科、法学研究科、政治経済学研究科、人間社会研究科、仏教学研究科 環境学研究科、教育学研究科、薬科学研究科、看護学研究科

世界の多様な人々と響創しながら世界の幸せのために行動できる人材

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科の学生(日本人)のモデルケース



注目

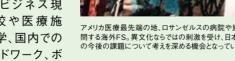
世界の現場に飛び込み課題に気づく フィールド・スタディーズ

学外学修プログラム「フィールド・スタディーズ」(以下、F S)は、1年次の必修科目になっている。そのため、2学期から 夏休みにかけて約2,000人もの学生が一斉に学外学修に 取り組む。

2013年度に15プログラムでスタートして、2018年度に は長期(1か月程度)62、短期(1週間程度)35の合計97プ ログラムを数えるまでに発展。特色ある教育として、文部科 学省「大学教育再生加速プログラム(AP)テーマⅣ 長期学 外学修プログラム(ギャップイヤー)」に採択されている。

長期プログラムは、現地の方々と一緒に働くことを通して、 現場の課題を共に考えるものだ。日本でのインターンシップ や地域活性化のプロジェクト活動のほかに、イギリス、カナ ダ、オーストラリアの大学への留学プログラムなどがある。

一方、短期プログ ラムには、海外での 企業やビジネス現 場、学校や医療施 設の見学、国内での フィールドワーク、ボ



ランティア活動、体験学習などがあり、さまざまな形で現場を 体感できるプログラムが準備されている。

2、3年次には選択で「学部横断型ゼミ(サブ・メジャー)」 や「学科FS」で学外学修をさらに深めることもできる。現場 体験を通して、課題を発見する目を養い、「アクティブな知」 の獲得と「思考力・表現力を備えて世界の課題に立ち向か う」人材育成を行っている。



アメリカ医療最先端の地、ロサンゼルスの病院や施設を訪 問する海外FS。異文化ならではの刺激を受け、日本の医療

各学部と共に国際化を推進するうえでのポイントについて話を聞いた。担当部署だけの〝出島〟的な国際化にとどまる大学が多い中、全学的に取り組む武蔵野大学 んでい 目標 化ヴィジョン

それ以外の有明キャンパスの学科 比率を、国際系の学科は1 任者は学長です。 世界の幸 推進する工程表で、 4年に日本人学生の留学経験者 達成期限を定めており、 ンスの5項目につ 生の海外派遣、 した「国際化ヴィジョ ースに進めて るものです。 せをカタチにする。」 ステー 学生の海外派遣。 います。 $\frac{2}{0}$ 国際化の面か トである 。これは、

法学部や 学との関係強化を図っています。 国際センタ 究者を招いて講義を行う る研究者の 全ての教職員にとって国際化は 容が具体化されます。 自分ごと このように国際センタ 目標が全学的に共有されている 年度目標に連携され、 心となって企画を立て、 しかし今では、 組みを通じて独自に海外 ショ 協定校を中 人間科学部などでは、 国際交流の一 になって 人選を行っています 面での連携も進んで -が主導 ル 学部・ ク いるのです して そのため 活動の内 まし \hat{o}

・プログ

ラム

以

下

ル

シッ

学展開が推進されています 自分ごと、とす 界の諸課

こうした全学での目

ることで、 勢は、 活動の狙いです。 題の存在に気づ 現場で起きていることを実際に見 の日常とは違う世界に飛び込み、 はあるもの 展開に寄与しています。 ŕ 学生自身の活動も国際化の ースとなる取り 貝が参加する「フィ 国際交流の ものの、国内中 自分の世界を広げ、 として受け 定ペ 心のプ 本学 いてもらうことが 世界の諸課題を 組みです。 の国際化の ログラ ジコラム参 止める姿 ルド・ 1年次に ムで

分も行ってみよう」 ルコミュニケ 9年度からは、 **১**

フェアなどを通じて積極的に留学 3回まで参加費 ています。G の間に留学が浸透していきます の姿や体験談に刺激を受けて、「自 経験を発信 に長期留学に挑戦したり、 は海外研修に参加した後に、 参加が可能な特待生プログラムで の語学研修やインタ に留学を普 の全員留学が始まり 9年度入試では、 及させる起爆剤にな ション学科で2年 は入試で選抜 全額免除で海外 してい います。 ーンシップに グロー 学生たち ・ます。 留学 **5**学 彼ら 6

国際センター長 ドナ・ウィークス

Donna WEEKS●2003年オーストラリア・クイーンズランド 大学博士課程修了。学部・大学院時代に日本に留学。日豪の 大学で研究活動を展開し、2016年武蔵野大学法学部政治 学科教授。2018年同大学国際センター長。日豪関係、日本 政治論、国際関係論などが専門。

取材・文/仲谷宏 撮影/亀井宏昭

*英語教育機関。大学内に学習センターを開設している

25 Between 2019 1-2